発表ポスター例(2016年度学校心理学会，ポスター発表優秀賞受賞)

児童の死亡事故を体験した学校への支援の在り方についての検討
ー複線径路・等至性モデル(TEM)を用いた臨床心理士の語りの分析からー

○和田浩平*1・窪田由紀*2・石川雅健*3・丸山笑里佳*4・大野志保*5・山中大貴*2・林亜希恵*2・野地麻奈美*2
(*1三河病院　*2名古屋大学　*3愛知学院大学　*4岡崎女子短期大学　*5愛知教育大学附属高等学校)

問題と目的

学校危機に際して支援チームの一員として参加する臨床心理士の体験に焦点を当てた報告は見られない。

学校危機時の緊急支援に関与した臨床心理士の体験を基に，危機に遭遇した学校への支援のあり方を検討する。

【複線径路・等至性モデル
(Trajectory Equifinality Model:TEM)の特徴】

①人間を開放システムとして捉えるシステム論(von Bertalanffy, 1968/1973)に依拠する
→外界と相互作用しながら最終的にある点に至るそのダイナミックな過程を検討できる

②時間を捨象して外在的に扱うことをせず，個人に経験された時間の流れを重視する
→本人が歩んできた道，流れを重視

③分析の枠組みとしての概念ツールが豊富
→豊かな現象をその概念に基づいて見ることができる

複線径路・等至性モデルにおいて用いられる概念			位置づけ	図
等至点	EFP	Equifinality Point	歴史的・文化的・社会的に埋め込まれた時空の制約によって、ある定常状態に等しくたどり着くポイント	
両極化した等至点	P-EFP	Polarized Equifinality Point	等至点とは逆の現象	
分岐点	BFP	Bifurcation Point	径路が発生・分岐するポイント	
必須通過点	OPP	Obligatory Passage Point	ある地点に移動するために必ず(通常ほとんどの人が)通るべきポイント	
社会的方向づけ	SD	Social Direction	分岐点にかかる力： 阻害、抑制的な要因、阻害する環境要因や文化・社会的圧力	
社会的ガイド	SG	Social Guidance	分岐点にかかる力： 援助的な力、人からの支えや社会的な支援や制度、行動を後押しする認識や認知(SDに対抗する環境要因や文化・社会的な支え)	

※実際に径路を通っている場合：実線での矢印
データではその径路を通っていないが、実際には通る可能性が想定できる場合：点線での矢印

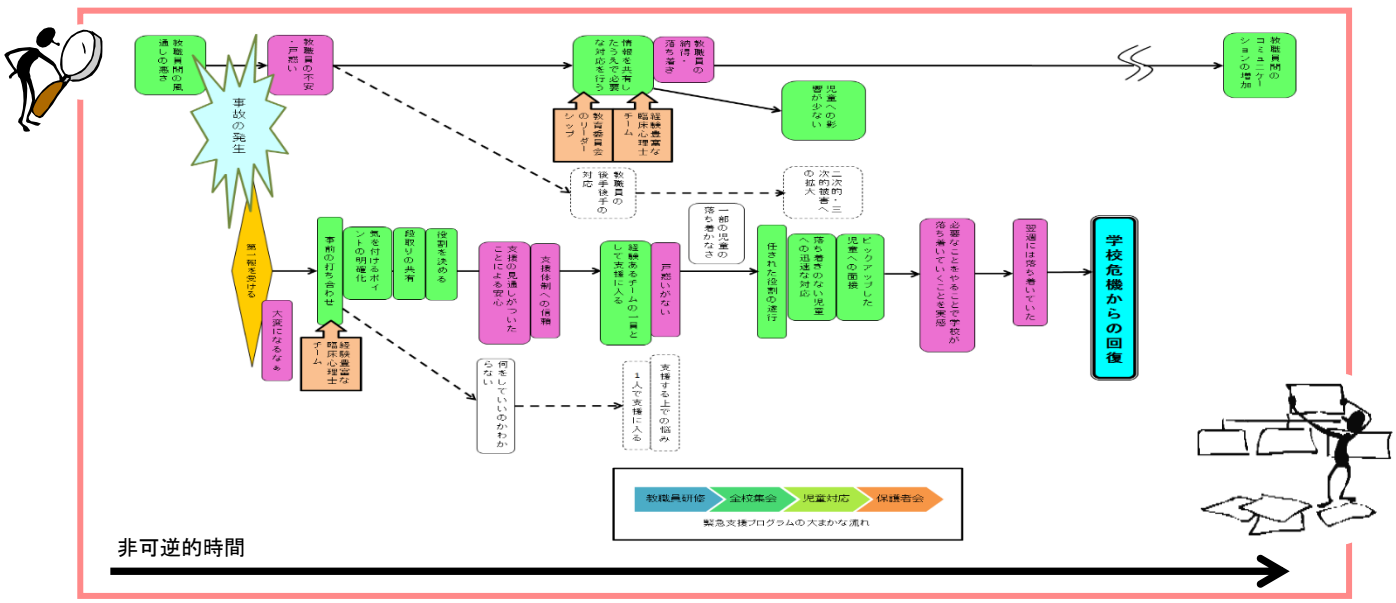
方　法

【インタビュー参加者】
学校管理外の児童の死亡事故時に緊急支援チームとして学校に入ったA県B市C小学校を学区に含む中学校のスクールカウンセラー(事故の前年度はC小学校のスクールカウンセラー)。
インタビュー参加については所定の書式で同意を得た。
インタビュー日時 X＋6年12月26日14時～15時。

【事故の概要】
C小学校在籍児童の事故死(第一の危機)。数日後、他学年児童保護者の心中(第二の危機)。臨床心理士チームによる緊急支援 (3日間、但し、第一の危機のみ)。

【データ収集方法】
学校危機時の緊急支援に関与した臨床心理士の体験について，半構造化面接が実施された。名古屋大学教育発達科学研究科倫理委員会承認(PR11-31)を得た。

【分析方法】
①インタビューデータをもとに逐語録を作成
②KJ法の手順を用いてラベルを抽出
③複線径路等至性モデル(TEM)の方法に従って分析
等至点(EFP)として「学校危機からの回復」を設定し，「事故の発生」から「学校危機からの回復」に至る過程を記述した。



結果と考察

- ◆ 経験豊富な心理士チームと一緒に支援に入れること，それぞれの役割が事前に明確にされていたことが，臨床心理士の安心感につながっていた。
- ➢ 現場で求められる支援内容の整理，求められる支援に対応できる心理士の育成，緊急時に適切な人材を派遣できる支援システムの構築，が必要である。

- ◆ 教育委員会および緊急支援チームが，教職員に的確で明確な指示を伝えたことで，教職員が納得・安心したうえで対応できる。
- ➢ 教育委員会と臨床心理士チームの連携を密にし，緊急時に足並みをそろえて動き出せる支援システムを整えておくことが重要だろう。

- ◆ はじめの段階で，緊急支援チームに入る心理士の役割が明確に決められていることで，迅速な対応が可能となり，他の児童への悪影響を食い止めることができた。
- ➢ 個々の支援者に求められる支援内容が明確に伝えられ，支援者間で共有されていることは，事件・事故による二次的な被害をおさえるうえでも大切なことと言える。

- ◆ 事故以前の教職員間の風通しの悪さが，危機的状況を通して打開され，コミュニケーションが増していた。
- ➢ 事件・事故は，学校の体制を揺るがす危機的なイベントとしても経験されるが，体制を再構成する機会ともなり得る。緊急支援の初期に行う対応の重要性が示唆される。どのような対応の在り方が望まれるのか，今後検討する必要があるだろう。

本研究は日本学術振興会科研費　基盤研究(B)(No.25285191)，(財)日本臨床心理士資格認定協会第2回研究助成(重点研究)の助成を受けた